



2025年12月22日

2025年度 小・中学生

「いのち」の作文コンクール **受賞作品が決定しました!!**

公益財団法人JR西日本あんしん社会財団では、将来を担う子どもたちに、作文を書くことを通じて「いのち」の大切さを考えていただくとともに、優秀な作品を広く周知し、「いのち」を大切にする安全で安心できる社会づくりにつなげるため、本コンクールを、近畿2府4県の小・中学生を対象に開催しております。7回目となる今回は3,846名の方からご応募いただきました。

今回は、大切な人やペット、日々の何気ない会話を通じて感じたいのちに関する作品が多いことに加え、戦後80年となることから戦争や紛争を通じていのちについて考える作品も増え、小・中学生の皆さまが感じる様々ないのちに出会うことができました。

選考の結果、以下のとおり各賞の受賞作品が決定しましたので、お知らせいたします。

1. 各賞と受賞者

- ・いのちの作文大賞（4名）
 - ・優秀賞・選考委員特別賞（6名）
 - ・優秀賞（20名）
 - ・入選（70名）
- ※受賞者一覧は、「別紙1」をご覧ください。

2. 受賞作品

- ・「いのちの作文大賞」受賞作品本文は、「別紙2」をご覧ください。
- ・「優秀賞・選考委員特別賞」、「優秀賞」の作品本文については、後日当財団ホームページにて掲載いたします。

3. 表彰式

「いのちの作文大賞」、「優秀賞・選考委員特別賞」、「優秀賞」の受賞者を対象に、1月25日（日）に表彰式を開催します。詳細は「別紙3」をご覧ください。

4. その他

詳しくはJR西日本あんしん社会財団のホームページをご覧ください。

<https://www.jrw-relief-f.or.jp/seminar/sakubun2025/>



【参考：本コンクール概要】

◎テーマ：あなたにとっての「いのち」

身近な体験、本やテレビ・インターネットなどを通じて、感じたり考えたりした「いのち」や、自然とのふれあい、最新の科学技術から感じた「いのち」など幅広い観点からの作品を募集。

◎募集対象：近畿2府4県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）に在住・在学の小・中学生

◎主催：公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 ◎協力：西日本旅客鉄道株式会社

◎後援：滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、神戸新聞社、京都新聞、週刊大阪日日新聞社、日本教育新聞社、京都大学人と社会の未来研究院、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

受賞者一覧（敬称略）

※ご応募いただいた当時の府県名、学校名を記載しております。

☆いのちの作文大賞（4名）

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫	神戸市立春日台小学校	2	太田 咲南	メジロの赤ちゃん
兵庫	姫路市立旭陽小学校	4	鵜飼 一有	生きているってすごい！
京都	私立京都女子大学附属小学校	5	中井 穂佳	命って思っていたよりずっと重い
京都	京都市立加茂川中学校	3	杉 いおり	思い出は今もこの胸に

☆優秀賞・選考委員特別賞（6名）

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫	神戸市立星和台小学校	1	小林 暖	いっしょうけんめい、うまれてきた
京都	私立京都女子大学附属小学校	3	中井 愛佳	命のみまもり隊
和歌山	私立智辯学園和歌山小学校	6	上村 晃司	天国への直通ダイヤル
兵庫	三木市内の中学校		※	人それぞれ
兵庫	神戸市立大沢中学校	2	福井 近良	僕の曾祖母
滋賀	大津市立仰木中学校	3	遠野 美怜	生きるってなんだろう

※ ご本人及び家族からのご希望がありましたので、お名前は非公表とさせていただきます。

☆優秀賞（20名）

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫	神戸市立北須磨小学校	1	志儀 陽鞠	わたしのなかのミャクミャク
滋賀	野洲市立野洲小学校	1	上田 暁右	ぼくの声
兵庫	神戸市立魚崎小学校	2	中西 愛	いのちがいっぱい
兵庫	神戸市立神の谷小学校	3	直原 仰志	がっちゃんのいのち
京都	私立同志社国際学院初等部	4	福田 恵万	八十二億の命を平等にしたい
兵庫	姫路市立安室小学校	4	山下 莉世	ずっと笑顔でいてね
兵庫	神戸市立塩屋北小学校	6	中川 紗希	あきらめてきた私からあきらめない私へ
和歌山	私立智辯学園和歌山小学校	6	齋藤 悠菜	百円のゴールドフィッシュ
和歌山	私立智辯学園和歌山小学校	6	秦 史帆	一番大切なもの
大阪	私立四天王寺中学校	1	井口 堇	いのちの多様性
大阪	私立四天王寺中学校	1	榎村 希美	逃げるという選択肢
大阪	私立四天王寺中学校	1	宗方 穂夏	祖父が教えてくれたこと
兵庫	兵庫県立大学附属中学校	1	荻野 佑果	いのちと戦争と誕生日と
京都	京都市立上京中学校	2	岡田 結衣	命を守るということ
大阪	私立大阪信愛学院中学校	2	小林 葉子	他者へのいたわり
兵庫	兵庫県立芦屋国際中等教育学校	2	森岡 美穂	苺
滋賀	大津市立志賀中学校	3	永井 日向	いのちの輝き方
兵庫	私立百合学院中学校	3	申 吏世	ともに育つ、ということ
滋賀	彦根市立西中学校	3	廣渡 慶悟	自分が生きる意味
兵庫	兵庫県立大学附属中学校	3	松田 伶菜	山が教えてくれたこと

☆入選（70名）

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫	私立小林聖心女子学院小学校	1	南浮 侑奈	ヤモリがおしえてくれたいのち
兵庫	姫路市立安室東小学校	1	森山 楷生	あたらしいいえ
兵庫	姫路市立峰相小学校	1	片岡 詩玖	おにいちちゃんのしょくもつアレルギー
大阪	岸和田市立八木小学校	2	堀田 睦仁	いのちのぎせい
和歌山	和歌山市立四箇郷小学校	2	喜多 美晴	おじいちゃんのはつぼん
大阪	枚方市立樟葉小学校	3	安達 洸晴	ぼくのぼ金が守る命
滋賀	野洲市立野洲小学校	3	上田 麻祐子	いのちの居場所
奈良	橿原市立真菅北小学校	4	村上 翔音	カマキリのたまご
兵庫	神戸市立塩屋北小学校	4	中川 紗愛	かみの毛とともに思いをのせて
兵庫	神戸市立摩耶小学校	4	白敷 結人	セミとぼく
兵庫	たつの市立小宅小学校	4	永井 陽莉	小さいいのち
滋賀	長浜市立木之本小学校	4	山岡 夏実	生きているってすばらしい
兵庫	姫路市立安室小学校	4	糴川 愛理	ダウンジャケット
兵庫	加古川市立氷丘南小学校	5	井原 彪	東じんぼうから見つめる命
大阪	堺市立津久野小学校	5	前田 瀬良	命のバトン
兵庫	私立仁川学院小学校	5	阿部 心春	森を作るヒグマの命
和歌山	私立智辯学園和歌山小学校	5	鳥 翔太郎	ひいおじいちゃんの梅ぼし
兵庫	神戸市立星和台小学校	5	来原 陸斗	いのちのかたち
兵庫	姫路市立旭陽小学校	5	玉田 陽彩	私の心ぞう
兵庫	姫路市立安室小学校	5	松尾 奈々帆	祖父の命を考えて
滋賀	野洲市立野洲小学校	5	八坂 遥騎	虫たちから学んだ命
京都	京都教育大学附属京都小中学校	6	川邊 るみ彩	はかない命
京都	京都市立西野小学校	6	久後 陽咲	みんなちがつてみんないい
大阪	堺市立白鷺小学校	6	前川 朱莉	当たり前じゃない日々を
大阪	堺市立錦小学校	6	杜 星瑤	いのちは一人ひとりにしかない物語
兵庫	姫路市立大塩小学校	6	濱西 明之進	ぼくが見たヒロシマ
兵庫	姫路市立香呂小学校	6	板東 里歩	小さな命
兵庫	姫路市立船津小学校	6	増田 梨花	私の家族
兵庫	姫路市立峰相小学校	6	北村 穂花	明日がない
和歌山	和歌山市立小倉小学校	6	大浦 陸聖	あたり前じゃない毎日
大阪	大阪市立大和川中学校	1	川端 萌音	命を教えてくれた猫
大阪	大阪市立大和川中学校	1	法橋 貴心	新しい命
滋賀	大津市立仰木中学校	1	伊藤 翔希	命ってなんだろう
京都	京都市立下鴨中学校	1	吉武 紡	祖父の部屋
京都	京都市立二条中学校	1	飯吞 心音	尊い命

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫	神戸市立有馬中学校	1	新宅 美月	生きているということ
大阪	私立四天王寺中学校	1	田中 景怜	命の大切さを知った
大阪	私立四天王寺中学校	1	永崎 知沙	命を見つめて
兵庫	私立滝川第二中学校	1	塩澤 夏希	小さな小さな言葉が
奈良	天理市立西中学校	1	中村 刹那	生きるということ
奈良	天理市立西中学校	1	久世 華斗	A I と『いのち』
兵庫	兵庫県立大学附属中学校	1	前田 柚希	当たり前でない命
滋賀	守山市立守山北中学校	1	東出 希来	赤ちゃんに戻る
大阪	大阪市立大和川中学校	2	白川 珠裡	身近な平和
滋賀	大津市立仰木中学校	2	福永 晴琉	セミのいのち
京都	京都市立大宅中学校	2	宮原 瑛心	あなたにとってのいのち
京都	京都市立開晴小中学校	2	上松 正道	命の声が聞こえる？
京都	京都市立開晴小中学校	2	橋詰 仁心	思い出のつながり
京都	京都市立上京中学校	2	樋口 和香	君がくれた大切なもの
京都	京都市立西京高等学校附属中学校	2	加藤 衣咲	十八年目のありがとう
大阪	私立大阪信愛学院中学校	2	檜垣 咲良	病気とたたかうピアニスト
京都	私立京都共栄学園中学校	2	伊東 咲紀	命の音
兵庫	私立神戸学院大学附属中学校	2	福田 翔斗	弟の誕生と命
滋賀	高島市立安曇川中学校	2	門地 陽和	おじいちゃんに教えてもらった事
滋賀	彦根市立中央中学校	2	谷沢 隼	命について
滋賀	守山市立守山北中学校	2	井村 零音	祖母の日記
奈良	山添村立山添中学校	2	栗林 瑠采	命の重さを感じて
京都	八幡市立男山東中学校	2	加藤 由羅	おばあちゃんの狼
和歌山	和歌山大学教育学部附属中学校	2	出嶋 英輝	昆虫を通じて感じた命
滋賀	大津市立仰木中学校	3	池野 柊音	命の教え
大阪	門真市立門真はすはな中学校	3	松本 優璃	あなたの明るい未来
京都	京都市立下鴨中学校	3	村上 芽衣	おじいちゃんのオムライス
兵庫	神戸市立上野中学校	3	榎本 風里	おとうと
滋賀	滋賀県立水口東中学校	3	西口 真央	おばあちゃんといのち
大阪	私立四天王寺中学校	3	岩城 千夏	いのちを受け入れたとき
滋賀	彦根市立中央中学校	3	中嶋 海斗	ちいさないのち
兵庫	兵庫県立芦屋国際中等教育学校	3	金 待希	小さくていい
兵庫	兵庫県立芦屋国際中等教育学校	3	林 愛生アローラ	愛の力はいのちを救う
兵庫	兵庫県立大学附属中学校	3	白井 志歩里	いのちについて考える
和歌山	和歌山大学教育学部附属中学校	3	大保 祐翔	逆境を力に変えて

メジロの赤ちゃん

神戸市立春日台小学校 二年 太田 咲南

わたしの家の木から、ピーピー声が聞こえた。よく見てみると、鳥がすをつくっていた。しらべてみたら、メジロのすだった。しばらく見ていたら、きみどり色のかわいい鳥が何かをくわえてすにもどってきた。ピーピーピー。メジロの赤ちゃんが口を大きくあけて、じゅんばんにえさをもらっていた。まだ毛が生えていなくて赤かった。赤ちゃんって本とうに赤いんだ。この日から、わたしは家の木に生まれたメジロの赤ちゃんが気になるようになった。

朝ごはんを食べる前に見に行つて、学校から帰ったら見に行つて、ねる前に見に行つて、かわいくて何回見てもあきない。ある日、雨がふった。けいほうが出そうなくらいのすごい雨だった。雨がふっていたけど、メジロの赤ちゃんが心ばいで見に行つた。雨にぬれてしんでいないかな。そんなふうに思っていたけど、すを見てびっくりした。メジロのお母さんが、自分がかさになって、すにふたをしていた。赤ちゃんを自分の体で雨からまもっていた。メジロのお母さんってすごいと思った。

だんだん赤ちゃんにきみどり色の毛が生えてきた。ある日、赤ちゃんが一羽、すからおちていた。たすけてあげたい。でも、お母さんに、さわったらだめだよ、人間のにおいがついたらお母さんにおせわしてもらえなくなってしんじやうよ、と言われた。とつぜん、赤ちゃんがフラフラっとんだ。ちかくでメジロのお母さんかとび方を見せていた。ちゃんとそれをまねしてとんだ。まだまだへたくそだけど、とんだ。すからおちたんじやない、もう赤ちゃんじゃなくなったんだ。

生まれたいのちは、お母さんやお父さんにまもられて、そだっていくんだ。いつか自分で生きていけるように。わたしはメジロに大じなことを教えてもらった。

生きているってすごい！

姫路市立旭陽小学校 四年 鵜飼 一有

アゲハチョウの羽化するしゅん間が見たくて、サンショウの葉っぱで見つけた幼虫をケースに入れて育てる事にした。3ミリの幼虫は葉っぱをムシヤムシヤと食べ、日に日に大きくなっていく。きれいな緑色で頭にはおしやれなもよう。そつと触ると黄色いつのを出して怒る。とてもかわいい。丸々太った幼虫はやがて動けなくなり、糸で体を固定してさなぎになった。いよいよ羽化するのかなと思うとワクワクした。

「もうすぐ羽化するよ。」

さなぎになって十日目の朝。お母さんに起こされて急いでケースを見に行くと、さなぎがピクッピクッと動いている。さなぎのからが割れてゆつくりとアゲハチョウが出てきた。幼虫とは似ても似つかないその姿を僕は不思議な気持ちで見ていた。さなぎから出てきたチョウの羽はシワシワで、時間をかけてゆつくりのぼしていく。ストローのような口を曲げのぼしする。うまく羽化できているか確認する様子を僕も見守っていたけれど、「まずい。」チョウの下の羽がシワシワのまま、いつまでたっても広がらない。パタパタとぶ練習を始めたがポトンと枝から落ちてしまふ。ケースの底で何度も何度も羽を動かすけれど体が持ち上がらない。それでもとぼうとするうちに、シワシワの羽はちぎれてそのうち動かなくなった。あれほど見なかった羽化のしゅん間だったのに。元気にとび立つと思っていたのに。予想しない結果に僕はどうすれば良いかわからず、命の消えたケースの中をしばらく見ていた。

毎年夏休み、この作文を書くために僕は命について考える。テレビをつければ今日も世界のどこかでミサイルが落とされ、たくさんの人が死んだとニュースが伝え

ている。大変な事が起きているとはわかっててもその恐ろしさや悲しさが心に広がる前に、「続いてはスポーツです。」の明るい声と音楽で画面が切り替わると、「今日のカープは勝ったかな。」と、僕の頭も切り替わる。命はどこか遠いものだった。だけど小さなケースの中で見つめた命は僕にとっては忘れられない命となった。

庭をヒラヒラととぶチョウを見ると、あのアゲハチョウを思い出す。生きているってそれだけですごい事なんだって思い出す。

命って思っていたよりずっと重い

私立京都女子大学附属小学校 五年 中井 穂佳

「命を大切にしましょう」

その言葉は、私のこれまでの人生では何度も親や先生から聞いてきました。でも、どこかあたり前すぎて、心には深く入ってきませんでした。だって、家族と笑って、ご飯を食べて、学校へ行く。そんな毎日は、日常でずっと続くのが普通だと思っていたからです。

でも、その気持ちが少しずつ変化したのは今年の六月に、平和学習のために広島の実爆資料館を訪れたからです。

資料館に入った途端、空気がひんやりとして、私の足が少し止まりました。周りの声が消えていくような静けさ。空気が変わった気がしました。焼けた壁の影、ガラスの中に並べられたこげたお弁当箱、止まったままの時計、やぶれた着物、黒くにじんだガラスビン。そこにあったのは、「物」ではなく、「命のあしあと」でした。

私が一番心を打たれたのは、一つのランドセルでした。七才の女の子が使っていたもので、色もわからないほどこげていて、ベルトもふたも溶けていました。説明文には、その子がどこで原爆にあって、どのように命を落としたのか書かれています、私は胸が苦しくなりました。「私とそんなに年もちがわないのに…。」と思ったけれど涙は出ませんでした。ただ、心の中で何かが、静かに、動き出した気がしたのです。

その夜、家に帰ると、いつもと変わらず弟と妹が笑いながらテレビを見ていました。その姿を見た時、胸の中にふっとあたたかい気持ちがありました。

「生きていてくれて、ありがとう」

こんな気持ちになったのは初めてでした。いつもはにぎやかすぎて、すぐにケンをカをするけれど、その声もいとおしく思えます。

その日から、私の中で小さな変化が始まりました。「いただきます」や「ごちそうさま」を心をこめて言うようになりました。「ごめんなさい」「ありがとう」と素直に言えるようになりました。弟がイタズラをしても、怒る前に話を聞くようになりました。何かイライラしていても、深呼吸して考えられるようになりました。

だれかの命と自分の命は、どこかでつながっている。命って、だれかの中で生き続けていくのだと感じます。

原爆資料館で見たこと、聞いたこと、感じたこと。すべてを言葉で表現できる自信はありません。でも、あの日私の中に生まれた思いは、これからの私の生き方を、きっと少しずつ変えてくれると思います。

命って、思っていたよりもずっと重い。その重さは、見えないけれど、たしかに私の中にあります。だから私は、これからもその命を大切に大切につないでいききたいと思います。

思い出は今もこの胸に

京都市立加茂川中学校 三年 杉 いおり

「おばあちゃん、おっきいのとれたよ！洗ってないけどもう食べてもいい？」

暑い夏の入道雲を背に広い畑で泥だらけになりながら、曾祖母と夏野菜をとった思い出を今でも鮮明に覚えている。畑までの道沿いにある赤い実を一緒にとって口に入れ、細いあぜ道を大きなバケツを持ってスキップしながら、曾祖母の内緒のミョウガがなる秘密基地を教えてもらおうと「みんなには内緒だよ。」とシワシワの曾祖母の顔がニコツと笑う。私はそんな時間が大好きだった。

曾祖母の野菜は無農薬で少し形が面白い。大きくて長いキュウリがあつたり、ひょうたんみたいな形のカボチャが転がっていたり、プリプリのお尻みたいな真っ赤なトマトもある。「いおりちゃん、スペシャルがあるよー、探してごらん！」と作業をしながら曾祖母が叫ぶ。宝探しでもするかのように、畑の中を姉と一緒に夢中で歩いてみると「あ！見つけた！」端っこの方にドカッと転がる私の頭と同じくらいの大きさのスイカ。大喜びで持ち上げた。その大きなスイカを姉と交代で持ち帰り、家に着いてまずはみんなにお披露目する。そして早速スイカ割りに挑む。目隠しをして手の鳴る方へと棒を振り上げるが、みんな大失敗。食いしん坊だからか、私の一撃はしつかり当たり、スイカが見事にパカッと割れた。そのまま人数分に切り分けて縁側で外の池の鯉を見ながらみんなで食べた。甘くてみずみずしくて、喉も渴いていたから夢中で頬張った。「おばあちゃん、このスイカの種を飛ばしたらここにもスイカなる？」と聞いたら、「どうじゃろう？それより、もうこんなにポンポコのお腹しちよるわ！」私のお腹をくすぐりながら曾祖母が笑った。

春には曾祖母の畑の一部は子どもたちが遊べるようにとレンゲ畑に変わる。姉の幼稚園の友達も呼んで、みんなでダイブした！私は花や昆虫も大好きなのでかわい

い花を潰すのは心が痛んだが、ふかふかして面白かった。シロツメクサで王冠も作った。横の畑にはたくさんキャベツができていて、私は小さな青虫を見つけた。手に乗せてみたらかわいくて喜んでいたら、「青虫は野菜に悪さをするからいいんよ。潰しなさい。」と曾祖母が言った。思わず「小さな虫にも命があるのよ!」と私が叫んだら曾祖母はびっくりした様子だったが、私はそつとキャベツに青虫を逃がした。このことがあってから、曾祖母の野菜が我が家に届く時には、キャベツにいつも青虫がついていた。粹な曾祖母からのプレゼントだったなと今でも思い出したらクスッと笑ってしまう。「青虫くん、山口からはるばる京都までようこそ!」と、長旅をした青虫をねぎらって、来る度に姉と観察を楽しんだ。

九十歳を過ぎても元気に畑に出ていた曾祖母が二年前の夏頃からあまり食べられなくなり、足腰も弱くなって畑に行けなくなった。帰省した際には、ベッドに横たわる曾祖母の手足をさすりながらたくさん話もした。「いおりちゃんの手は白くてきれいじゃねえ。おばあちゃんの手は細くて汚くなってしもうたよ。」畑で大きな鍬を振り上げたり、重たいお米を精米したり、あんなに力持ちだった曾祖母の手がとても細くて小さく見えたのは悲しかったが、とてもきれいな手だった。

新年をみんなで楽しく過ごして、少し暖かくなって来た頃、曾祖母は眠るように旅立っていった。「いつも畑にいる汚いババアよ。」と言っていたが、私にとってその姿は最期までもとても強くて品のある美しいおばあちゃんだった。私は最期に頭をなでて、手を握ったがやはりその手は細いけれど、とてもきれいで優しい手だった。

曾祖母を空へと見送った日、ずっと咲くことを楽しみにしていた庭のしだれ梅が一つだけ咲いているのを見つけた。「おばあちゃんも見ているといいな。」と心の中で思いながら私は空に向かって思いっきりピースをした!

表彰式について

1. 開催日時

2026 年 1 月 25 日（日）14：00～15：45

2. 会 場

新大阪ワシントンホテルプラザ 2階「ルミエール」

J R新大阪駅から徒歩5分、地下鉄新大阪駅から徒歩5分

3. 内 容

- ・主催者あいさつ
- ・表彰
 - いのちの作文大賞（4名） ※「いのちの作文大賞」受賞者コメントあり
 - 優秀賞・選考委員特別賞（6名）
 - 優秀賞（20名）
- ・講評・講話（選考委員代表 重松 清 氏）

4. 出席者

①受賞者

「いのちの作文大賞」「優秀賞・選考委員特別賞」「優秀賞」受賞者ならびに保護者・学校関係者

②選考委員（五十音順）

・菊池 省三 氏（教育実践研究家）

1959 年生まれ、愛媛県出身。
 小学校教師として、現代の学校現場に即した独自の実践によりコミュニケーション力あふれる教育をめざしてきた。
 教員同士の学びの場「菊池道場」を主宰（支部は全国 54 か所）。
 2012 年『プロフェッショナル 仕事の流儀』で取り上げられ反響を呼ぶ。
 テレビ東京「たけしのニッポンのミカタ」、日本テレビ「NEWS ZERO」「世界一受けたい授業」などにも出演。
 2015 年小学校教師退職後、教育実践研究家として講演、執筆など多方面に活躍中。
 主な著書 『学級崩壊立て直し請負人』『菊池省三流 奇跡の学級づくり』

・重松 清 氏（作家）

1963 年生まれ、岡山県出身。早稲田大学教育学部卒。出版社勤務をへて著述業に。
 2016 年早稲田大学文化構想学部で任期付き教授に就任。
 直木賞はじめ受賞多数。
 「いのち」や「家族」をテーマにした作品が多く、教科書への採用や映画化・テレビドラマ化されている作品も多い。
 主な映画化作品 『ステップ』『疾走』『きみの友だち』『その日のまえに』
 主なテレビドラマ化作品 『とんび』『流星ワゴン』『ビタミンF』
 主な教科書採用作品 『カレーライス』『卒業ホームラン』『タオル』

・藤岡 陽子 氏（作家・看護師）

1971 年、京都市生まれ。同志社大学を卒業した後、報知新聞社に勤務。
 退社後、タンザニアのダル・エス・サラーム大学に留学。2005 年に慈恵看護専門学校を卒業し、看護師として働きながら執筆を続け、2006 年に『結い言』で第 40 回「北日本文学賞選奨」を受賞する。
 2009 年に作家デビューし、『リラの花咲くけものみち』で第 45 回「吉川英治文学新人賞」を受賞。
 主な映画化作品 『おしよりん』
 主なテレビドラマ化作品 『いつまでも白い羽根』『満天のゴール』『リラの花咲くけものみち』

③J R西日本あんしん社会財団

理 事 長 来島 達夫 （西日本旅客鉄道株式会社 顧問）

常務理事 田中 輝幸 （西日本旅客鉄道株式会社 執行役員）